【別紙３】　強度事業終了後のまとめ（効果の検証：事業後１年半の経過から）

2021（R3）年７月　記入者（Aさん母）

＜回答の基準（集計）＞

①理解できましたか？　（ 4．かなり理解できた（5）　3．概ね理解できた　2．あまり理解できなかった　1．全く理解できなかった ）
②実行できましたか？　（ 4．無理なく実行できた(2)　3．少し努力が必要（2）　2．かなり努力が必要（1）　1．実施が困難 ）
③行動はどのように変化しましたか？（ 4．なくなった（2）　3．減ってきた（2）　2．変化なし　1．問題が大きくなった ）
④現在実行している手立てはよい効果をもたらしていますか？　（ 4．大変効果的（5）　3．いく分効果的　2．変化なし　1．逆効果 ）

困り度	A 利用前に困っていた行動等	B あかりの家の提案した内容・手続き等	C あかりの家からの提案について			
			①理解できましたか？	②実行できましたか？	③行動はどのように変化しましたか？	④現在実行している手立てはよい効果をもたらしていますか？
1	服を脱ぐ 着替えを繰り返す	食事・排泄・睡眠／日中活動の生活の軸を整え、そこでのやりとりがうまくかみ合う（ズレの減少）	④　3　2　1	4　③　2　1	4　③　2　1	④　3　2　1
2	排泄 ・失禁 ・トイレ頻回 ・ペーパーを空になるまで巻き取る	・水分量の調整とトイレ時付き添うことで、しっかり出し切るよう声かけし、本人の排泄リズムをつくる ・トイレには付き添い、トイレットペーパーをとる回数を５カウントで一緒に手添えで行うようにし、使い切りや他の物の水浸けを予防。 ・事業の間、あかりの家でコイルの巻取り作業を通じて、５カウントを覚えるきっかけになった。	④　3　2　1	4　3　②　1	4　③　2　1	④　3　2　1
3	睡眠リズムの崩れ	医療機関と細かな情報連携で薬を調整した（４回）	④　3　2　1	④　3　2　1	④　3　2　1	④　3　2　1
4	余暇の過ごし方 ・色んな物をトイレに浸ける（トイレットペーパー、タオル等）	ビーズ暖簾、パズル、編み物など具体的な物を介した関わりの提案→「これをヘルパーとやってもらう」	④　3　2　1	4　③　2　1	④　3　2　1	④　3　2　1
5	食事 ・手づかみ ・テーブルに一旦取り出して食べる	・一口サイズにカットし、食べやすくする。 ・本人任せにして、掻きこみ・えづきにならない。 ・箸で挟む（一口量の調整）→口に入れる→噛む（「手はおひざ」で待つ）と動きに一呼吸おいて区切るイメージ。スピード等をこちらが調整してあげる。それでも難しい場合は介助する。	④　3　2　1	④　3　2　1	4　③　2　1	④　3　2　1

Q：「Aさんは全体的にみて、よい方向に変化していると思いますか」（ ④.大変よい方向に　③.よい方向に　2．どちらとも言えない　1．悪い方向 ）

【主観的な評価】〔例：「質」の変化（その行動は変化がないが、他の場面での行動はどうか）（２）支援者の印象（支援者がAさんをどのように捉えるようになったか）等〕

・事業に参加したことで強い覚悟ができた。本人だけではこれらの一旦改善された行動の継続は難しいが、家族、通所施設、訪問介護で連携を取りながら同じ方向で支援することで困っていた行動がでなくなったり軽減している。
・医療機関で合わせてもらった薬の効果も大きい。
・まだまだ小さな波はあるが、こちらのアプローチや工夫次第で生活しやすくなり、本人が作業など通じてできることを見つけていくことで心豊かに過ごせると改めて感じている。　うちの子は、まだまだ伸びしろ大です!